

平成29年3月
在マルセイユ日本国総領事館
(領事 榎屋 学)

南仏における安全対策

第1. はじめに

「安全で安心な生活」を送るためには、「危険な目（犯罪被害，災害，その他トラブル）」に遭わないようにする必要があります。そのためには，①身のまわりにある危険を知り，②その危険から身を守る方法を知らなければなりません。

安全対策のコツは、「正しく怖がる」ことです。「みんなやってる（やっていない）から大丈夫だろう。」「今まで大丈夫だったから，これからも大丈夫。」「いちいち気にしていたら楽しく生活できない。」「テロに屈しないためには，今までどおりに生活しなければいけない。」と思い込んで現実を直視せずにいると，危険を過小評価してしまうことになりかねません。また，あまりに過剰に怖がってしまうと，日常生活に支障を来してしまいます。目の前の危険にしっかりと目を向け，正しく認識して正しく怖がり，その上で被害に遭わないよう適切な対策をとるようにしましょう。

第2. テロ対策

1. フランスの現状／在留邦人を取り巻く現状

(1) 近年フランスにおいて発生した主なテロ事件

2015年

- 1月8日 シャルリ・エブド社襲撃事件（パリ）
- 2月3日 男が刃物で兵士3人を襲撃（ニース）
- 6月26日 男がガス工場経営者の首を切断し，ガスタンクを爆破（イゼール）
- 7月14日 石油コンビナート爆破（マルセイユ）
- 8月22日 高速列車内で男が発砲（アムステルダムーパリ）
- 11月13日 パリ同時多発テロ（パリ）
- 11月19日 地下鉄駅内でヴェール着用女性が切りつけられ，ユダ

ヤ人教師が3人組からナイフで襲撃される。(マルセイユ)

2016年

- 1月1日 モスク警護中の兵士に男が自動車で突入(ヴァランス)
- 1月7日 男が刃物を振り回して警察署に突入(パリ)
- 4月23日 男がカッターナイフで兵士を襲撃(ストラスブール)
- 6月14日 警察幹部と妻が自宅で殺害(マニャンビル)
- 7月14日 トラック突入テロ(ニース)
- 7月26日 刃物所持の2人組が教会を襲撃して立て籠もり、司祭を殺害(ノルマンディー)

2017年

- 2月3日 ルーヴル美術館で山刀を持った男が兵士を襲撃(パリ)

(2) 日本人が海外で巻き込まれたテロ事件

ア. アルジェリア人質事件(2013年1月, アルジェリア)

アルカイダ系武装勢力が天然ガス精製プラントを襲撃, 41人(日本人10人)が人質になる。特殊部隊の突入で人質37人が死亡。

イ. シリア邦人拉致殺害事件(2015年1月, シリア)

イスラム過激派組織ISILがシリアで行方不明となっていた日本人2名の殺害を予告する映像を公開。その後, 同2名を殺害した映像が配信された。

ウ. バルドー国立博物館襲撃テロ事件(2015年3月, チュニジア)

首都郊外のバルドー国立博物館を武装集団が襲撃。21人(日本人3人)が死亡。ISIL等が犯行声明を発出。

エ. ブリュッセル連続爆破テロ事件(2016年3月, ベルギー)

国際空港の出発ターミナル付近で2回の爆発が発生。また, 市内中心部の地下鉄駅でも爆発が発生。死者31人, 負傷者270人(日本人2人)。

オ. ダッカ飲食店襲撃事件(2016年7月, バングラデシュ)

首都ダッカ市内のレストランを武装グループが襲撃して客等を人質にして籠城, 20人(日本人7人)を殺害。

(3) その他

ア. ISILは, 世界の(スンニ派)イスラム教徒に対して, 米国・フランス・オーストラリア・カナダを始めとする対ISIL連合諸国の国民を攻撃するよう扇動する声明を発出。

イ。「(日本)国民は、イスラム帝国の剣が既にさやから抜かれ、日本の異教徒に向けられていることを知るべきだ。」(DABIQ, 2015年2月)

2. テロの脅威から身を守る方法

(1) テロの脅威が高い場所・状況を知り、できるだけその場にはいないようにする。やむなく行く場合には、雑踏がひどい時間や場所を避け、滞在時間を少しでも短くし、さらに周囲の状況に充分気を配ってテロの予兆を把握する努力をする。

ア. テロが発生する可能性が高い場所・状況

(ア) 人が多く集まるイベントや行事

サッカースタジアム及びその周辺(試合中)

コンサートホール(公演中)

レストラン(週末の夜, 混雑時, 繁華街)

公共交通機関(走行中)

イベント会場(開催中, 記念日, 夜, 雑踏, 屋外)

クリスマス・マーケット(開催中, 雑踏, 宗教関連)

【ソフト・ターゲット】

レストランや劇場, 屋外イベント会場など,

警備が比較的緩やかで, 不特定多数の人が集まる場所

(イ) 宗教関連施設・軍事施設・政府関連施設

ユダヤ教施設, 警察署, 警戒中の兵士等

イ. その場にはいないようにする。

→ 代替手段がないか考える。

→ 雑踏が多い場所(施設の出入口等)や時間帯(イベント開始直前直後)を避ける。

→ 滞在時間を減らす。

ウ. 周囲の状況に気を配る。

→ 施設の状況(出入口の場所, 避難経路・方法)

→ 人の状況(不審者, 雑踏・人の流れ)

→ 物の状況(不審物, 障害物)

→ 状況の変化（場の雰囲気、変化の兆し）

(2) テロに遭遇してしまった場合の対応

ア. 伏せる

- ・ 爆発音や銃声が聞こえたら、第一撃から身を守るために伏せる。
- ・ 車や壁、机等に身を寄せる。

イ. 逃げる

- ・ まず、逃げることを考える。
- ・ 身を低くし、物に身を隠しながら。
- ・ 荷物は持たない。
- ・ 音や光で襲撃者のいる方向を見極め、反対方向に逃げる。
- ・ パニックになった群衆に巻き込まれないよう注意する。

ウ. 隠れる

- ・ 逃げるのが危険だと判断したら、隠れる。
 - 部屋の中、机の下など。
 - 扉を閉める、鍵を掛ける、電気を消す、物音を立てない、携帯電話を消音モードにする。
- ・ 安全が確認できるまで隠れ続ける。
 - 治安部隊突入時の銃撃戦に注意。
 - 避難時はテロリストに間違われぬように手を挙げて。

第3. 一般犯罪対策

1. フランスの犯罪情勢

ア. 犯罪統計（2014年、統計出典：ONDRP）

フランス全土	約375.8万件
パリ	約 26.3万件
ブーシュ・デュ・ローヌ県	約 19.4万件
アルプ・マリタイム県	約 12.6万件

（参考：日本の刑法犯認知件数：140万件（2014年））

イ. 人口10万人当たり犯罪発生率（2013年）

フランス全土	4,300件
イル・ドゥ・フランス	6,894件
PACA地域圏	6,522件

（参考：日本の10万人当たり刑法犯認知件数：1,105件（2014年））

2. 性犯罪対策

(1) 犯罪対策の基本的考え方

- ア. 複数の防犯対策を組み合わせることで防衛力を向上させる。
- イ. 絶対安全（絶対危険）というものはない。周囲の防犯能力が自分より高ければ、防犯対策をとっていても相対的に無防備に見られて犯罪の対象となる可能性があることを認識する。油断は禁物。

(2) 性犯罪対策の難しさ

ア. 被害の実態を知ることが困難

性犯罪は発生数に対して被害申告が少なく、親戚や友人に相談できないケースも多く、また性犯罪について語ることが避けられる傾向があることから、被害の実態を把握することが困難。

イ. 被害者・被疑者の感情を想像することが困難

性犯罪は、被疑者の9割が男性で被害者の9割が女性であることから、被害の苦しみや被疑者の心の動きを想像することが困難。

ウ. 被害回復が困難

被害に伴う精神的被害（PTSD）や肉体的被害（怪我，病気，妊娠）を伴うケースが多く、被害回復が困難。

(3) 性犯罪の実態

ア. フランスにおける強姦発生件数（2014年，統計出典：ONDRP）

強姦 : 約 12,000件（届出数）（日本：約1,250件）

強姦未遂：約198,000件

1日当たり約577件，1時間当たり24件，2分半に1回（含未遂）

イ. 発生の態様

- ・ 80%は被疑者と被害者の面識あり。
- ・ 67%は被疑者か被害者の自宅で発生
- ・ 被害者のうち51%が負傷

(4) 在留邦人を取り巻く性犯罪

ア. 誰かを頼りにせざるを得ない環境にある。

言葉の壁や煩雑な行政手続きの壁があることから、誰かに相談したり助けを求めたりなど、人を頼りにせざるを得ない状況が発生しがちになる。相談相手が少ないと、その人に対する依存度が上がってしまい、その話をすべて信じざるをえなくなったり、相談相手からの要求

や誘いを断りづらい雰囲気が出てしまう。

また、はじめから手助けや相談に乗るふりをして接近するケースもある。

イ. 文化・習慣に関する知識や理解が不足している。

未知の文化や習慣に対する遠慮や躊躇につけ込まれ、「ここではこれが普通だから心配する必要はない。」等とミスリードされてしまうケースがある。

(5) 性犯罪被害に遭わないための対策

ア. 発生するような環境に自分を置かない。

(7) 異性と2人きりにならない。

- ・ 密室，車，エレベータなど。
- ・ 1人で自宅に行かず，招待しないようにする。
→ 被疑者・被害者の自宅での性犯罪発生は全体の67%
- ・ 2人きりにならないように，呼べば来てくれる「3人目」となる友人等をつくり，お互いヘルプし合う。
- ・ 相手や状況に基づいて判断して断ると，「自分を疑うのか？」
「どうして？〇〇だから大丈夫。」と抗弁されて断りづらくなるので，そもそも「異性と2人きりにならない。」というルールを作ってそれに基づいて断ると，断りやすくなる場合がある。
- ・ 友人の友人は，第三者にカウントしない。

(イ) 性犯罪が発生する可能性が高い場所に行かない。

- ① 密室：被疑者・被害者の自宅での被害は67%
- ② 夜道：少しでも「明るく」「人通りが多く」「死角が少ない」道を通るようにする。
→ よく使う道の夜の状況（街灯の有無，人の流れ，店の開店時間）を知っておく。
- ③ 駐車場：駐車場は死角だらけ。車中に人が潜んでいてもわかりづらい。車に無理矢理引き込まれる可能性あり。路上の駐車車両にも注意。
→ 駐車車両の直近は歩かない。駐車車両に人が乗っていないか注意する。エンジンがかかっている車や窓が曇っている車も注意。
→ 路上の駐車車両も注意。駐車車両がない側を歩く。

- ④ タクシー：運転手と2人きりになり、どこに行くか運転手任せであるタクシーは油断禁物。
- 流しや駐車中のタクシーより電話で配車を依頼すれば、配車履歴が残るためリスクが減少する。
 - 車内から家族等に目的地や到着時間を伝える電話を掛けたり、運転手に携帯電話を渡して家族等から目的地を案内させる等、運転手に第三者の存在を意識させておくと、誘拐や監禁の抑止対策となる。

イ. 相手に犯意を起こさせない。

(ア) あいまいな言動や態度に注意

イエスともノーとも取れる言動や態度は、相手の都合のいいように解釈される恐れがあり、さらにそのあいまいな言動を非難されて罪悪感を感じさせられていいなりになってしまうケースもあることから、言動や態度ははっきりと示す。その場で判断がつかないときは「今は決められない。」と留保する意思を明示する。

(イ) 服装 (TPO)

目立つ格好や性的好奇心を煽るような服装は控える。

ある場所では問題ない格好でも、別の場所や状況になると相対的に目立ってしまう場合もあるので、まわりの状況に適した格好を心がける。

(ウ) スキを見せない

周囲に注意を払い、襲撃するチャンスを与えないようにする。

→ 携帯電話で話しながら、スマホを操作しながら、イヤフォンで音楽を聴きながら歩いていると、後ろから近づいてくる人に気づくことができないので注意。

→ 夜間は、建物や駅から出た時、電車やバスを降りた時、曲がり角を曲がった時、ついてきている人間がいないか確認する習慣をつける。

→ アパートに入る時、車に乗り込む時は襲われる可能性が高くなるので注意。部屋(車)に近づく前に、近くに人がいないかチェックする。部屋(車)の前に立ち止まってカバンの中から鍵を探すのではなく、あらかじめ別の場所に取り出して準備しておいて、最小限の時間で部屋(車)に入り錠をかける。

ウ．相談できるチャンネルを増やす。

(ア) ひとりの人間に頼りきりになる状況を避ける。

→ 相談するチャンネルがひとつしかないと、その人の意見を聞かざるを得なくなったり、要求や誘いを断りづらくなってしまい、また知識や認識が偏ってしまう可能性がある。

(イ) 在留邦人同士の情報交換やヘルプ機能を活用する。

→ 日本人会等邦人組織の情報、ネットのサイト、総領事館

第4．平素の準備

1．情報の収集

治安に関する情報、事件の発生に関する情報が自動的に入ってくる環境を作る。

→ ニュースレターの登録、スマホのニュース・アプリを入手すれば、自分で新聞を買ったりサイトに行かなくても、事件の発生状況などが送られてくる。

(BFMTV, La Provence, Nice Matin, La depeche, Midi Libre等)

→ 知人・勤務先の同僚等に対し、自分が治安に関するテーマに感心があることを伝えておき、関連する事案があったら教えてくれるようお願いする。

2．助けを求めることができる人を作る。

助けを求める人が少なければ知識や対策が偏る可能性があり、また相手の都合で迅速な対応ができなくなる可能性があることから、できるだけ複数のチャンネルを構築する必要がある。

→ 日本人会等の邦人組織、総領事館（領事班）、ネット情報等

3．緊急時のための準備・想定をしておく。

(1) 緊急時の連絡先をまとめておく。

警察・消防、病院（主治医、救急）、総領事館
携帯電話がなくても連絡先がわかるように。

(2) 緊急時の行動の確認

事態（テロ、自然災害、犯罪被害等）に応じてとるべき行動を考えておき、家族や同僚と意思統一しておく。